

CHINON

35ミリ1眼コンパクトズーム

GENESIS

(オートデート付)

〔使用説明書〕

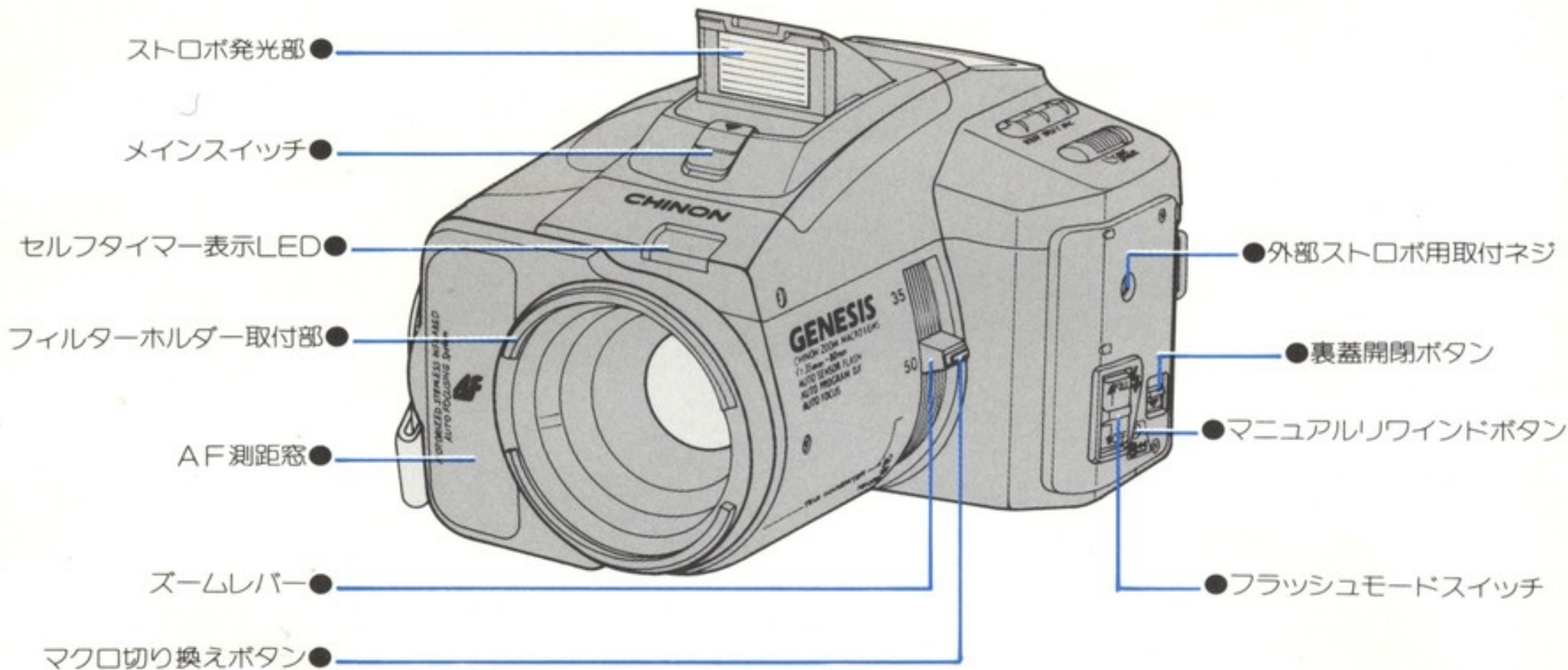


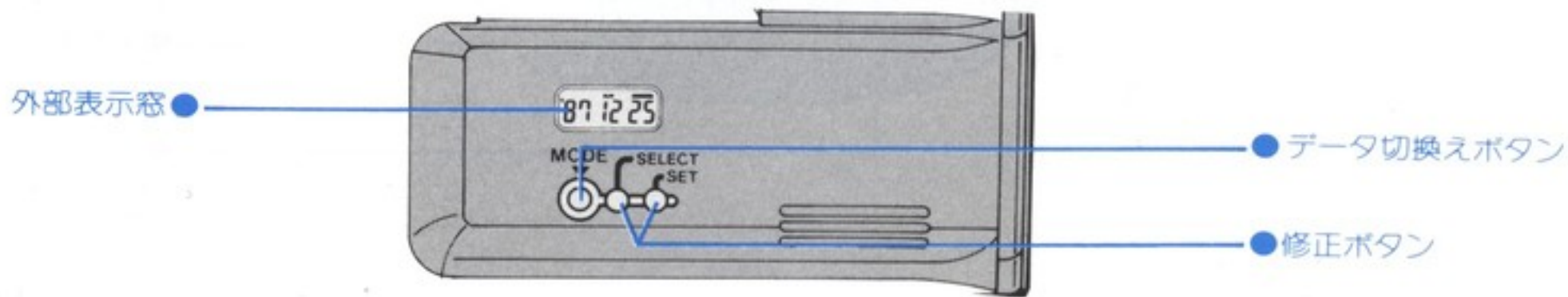
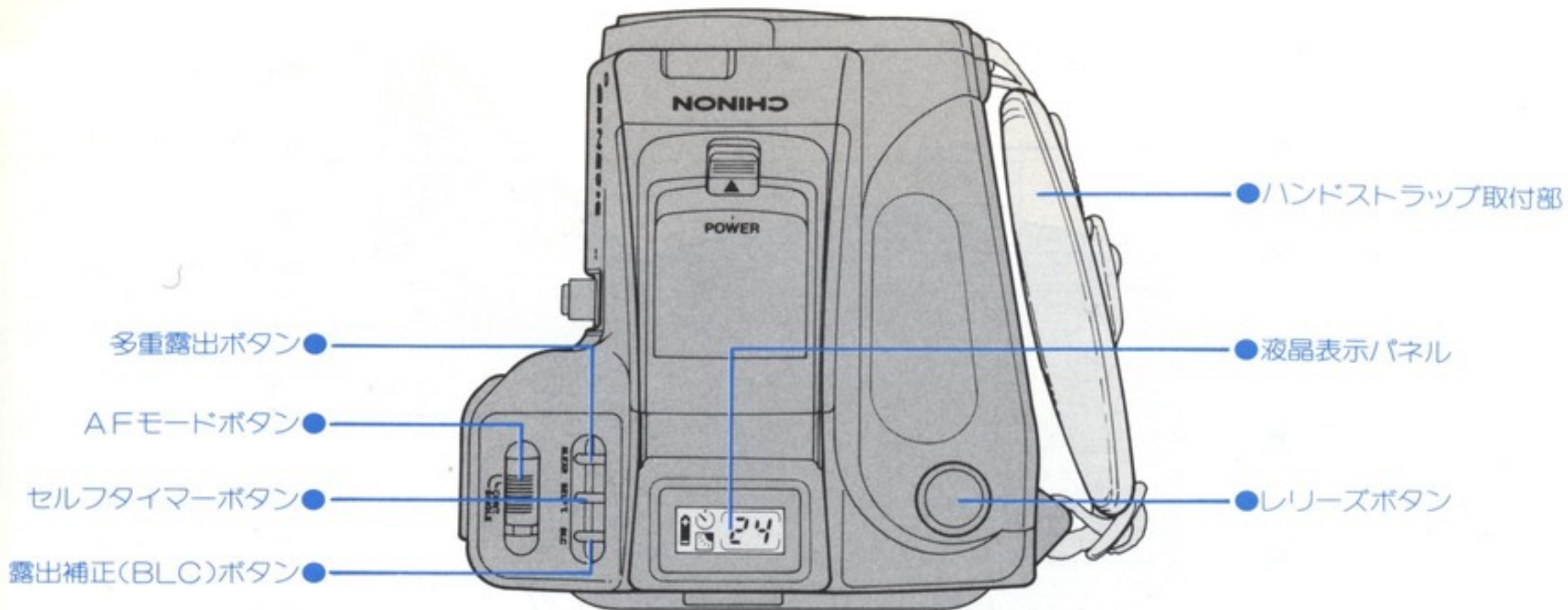
《目次》

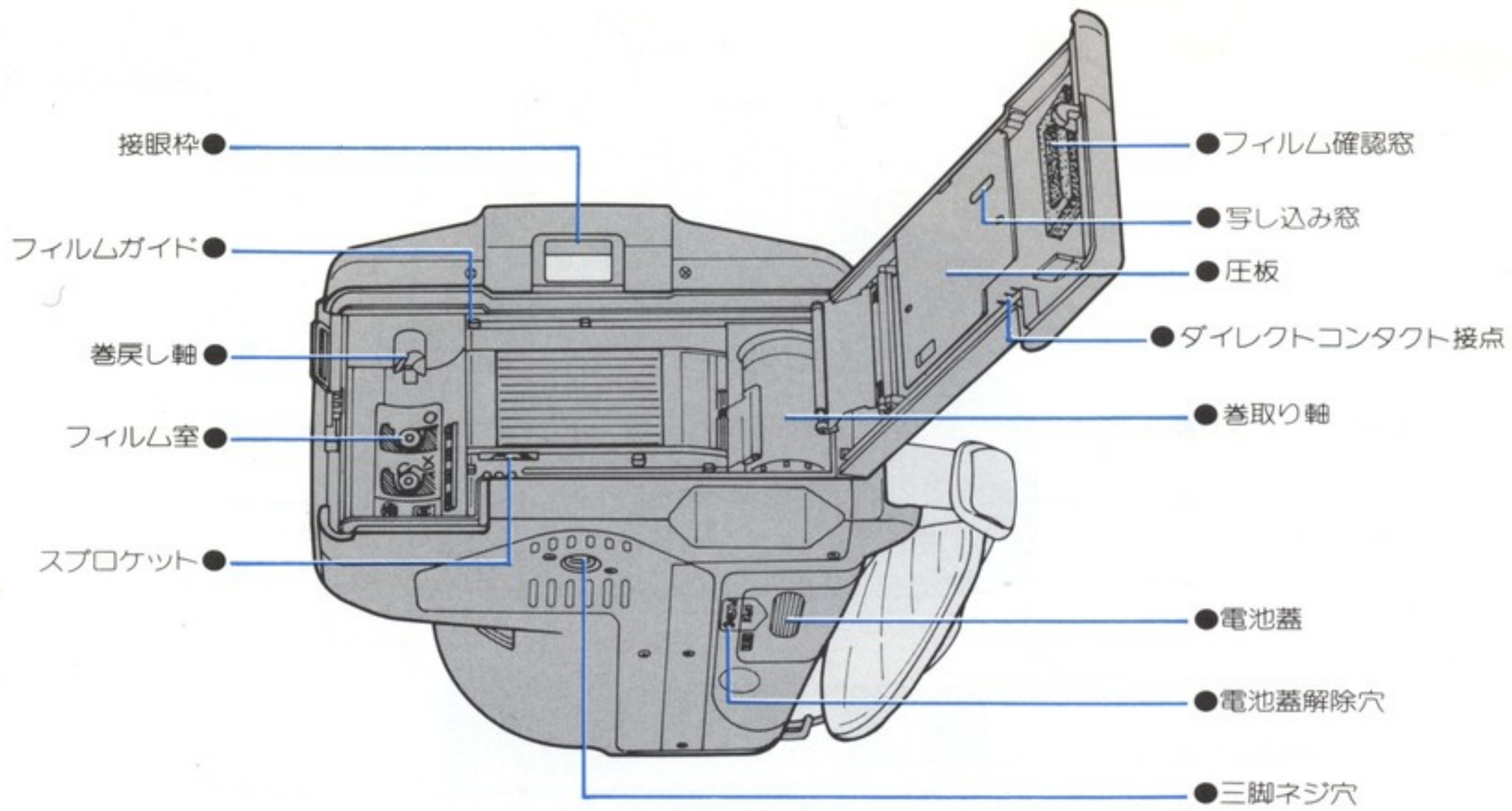
- 各部の名称……………2～4
- 基本的な使い方……………5～15
 1. 電池を入れます……………5
 2. 電池の確認……………6
 3. フィルム感度のセット……………7
 4. フィルムの入れ方……………7
 5. カメラの構え方……………9
 6. ファインダー内表示……………10
 7. 液晶表示……………10
 8. ズーミングのしかた……………11
 9. オートフォーカス撮影……………12
 10. フィルムの巻き戻し……………14
 11. ストラップの取り付け方……………15

- 応用的な使い方……………16～31
 1. 連続撮影……………16
 2. AFモード……………17
 3. フォーカスロックと解除……………18
 4. 露出補正
（バックライトコントロール）…19
 5. マクロ撮影……………20
 6. 多重露出……………21
 7. セルフタイマー撮影……………24
 8. フラッシュ撮影……………25
 9. オートデート機構……………28
- 専用アクセサリ……………32～34
- 手入れと保管……………35
- 仕様……………36
- アフターサービスについて……………37

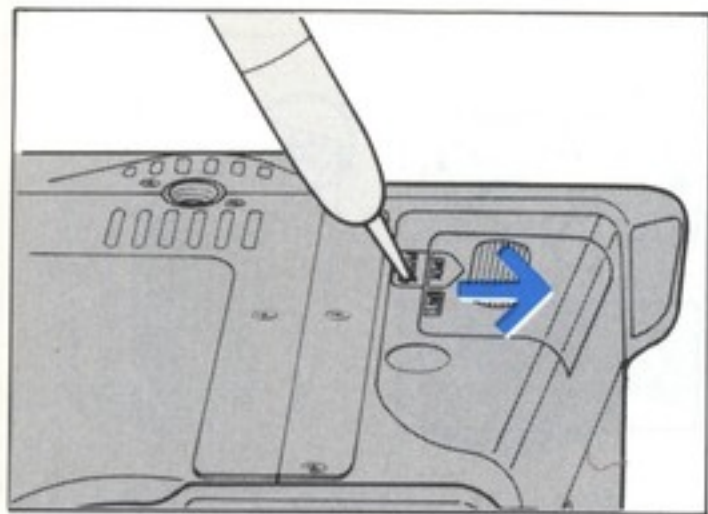
各部の名称



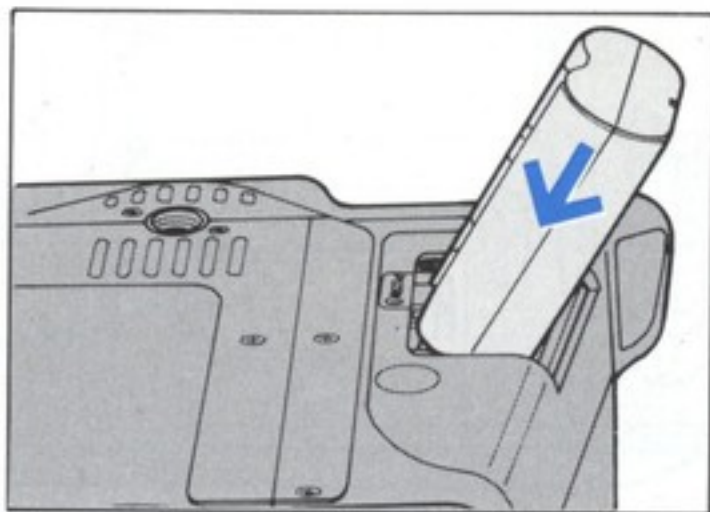




1 電池を入れます



1) カメラ下部の電池解除穴をボールペンのような先の鋭くないもので押し、電池蓋を矢印の方向へ開けます。



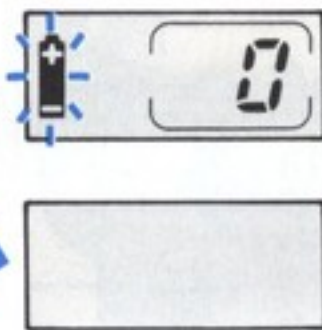
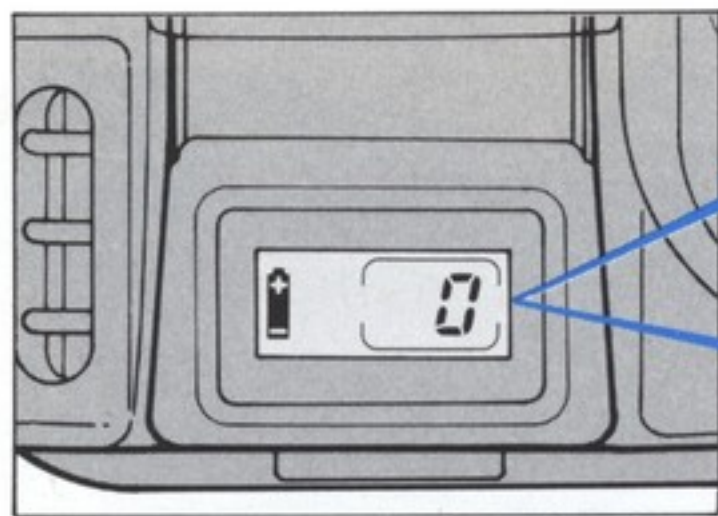
2) 電池を電池室の中の表示と同じように正しく入れ、蓋をしめます。リチウム電池(2CR5)を使用します。

2 電池の確認



メインスイッチ（フラッシュアップボタン）をスライドさせ、カメラをオンの状態にします。このとき、液晶表示パネルにフィルムカウンターとバッテリーチェックマークが点灯していれば、適正な電源供給がなされていることを表します。手をはなしてもマークは30秒間点灯します。

6

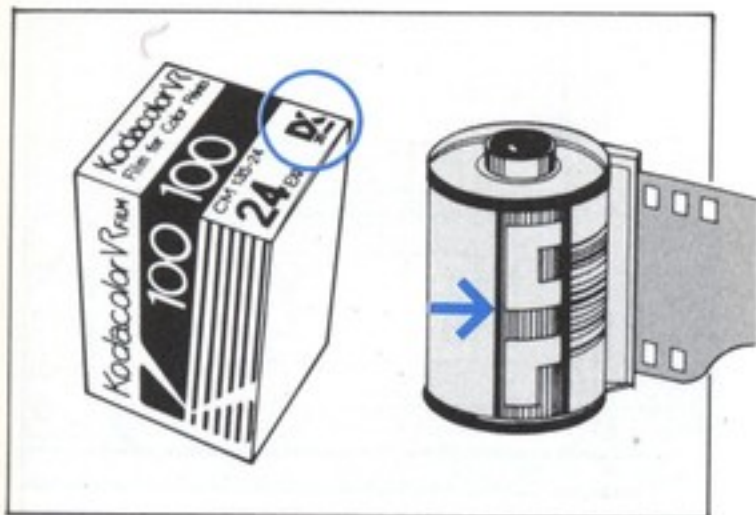


〔メモリーバックアップシステム〕

本機は、メモリーバックアップにコンデンサーを使用しています。従って、電池を抜いても約2～3時間以上はメモリー機能が働いていますが、それ以上経過すると、フィルムカウンターが、撮影の途中でも0に戻り、新しく電池を入れた際フィルムがローディングされ、カウンターが1よりスタートします。

- 次の場合は、電池の性能が低下していますので新しい電池と交換して下さい。
 - ・ バッテリーチェックマークが点滅した。
 - ・ 液晶表示パネルに全く表示されなくなった。
- 24枚撮りフィルムを月1本撮影した時、電池寿命は、約3年です。（当社試験条件による）

3 フィルム感度のセット

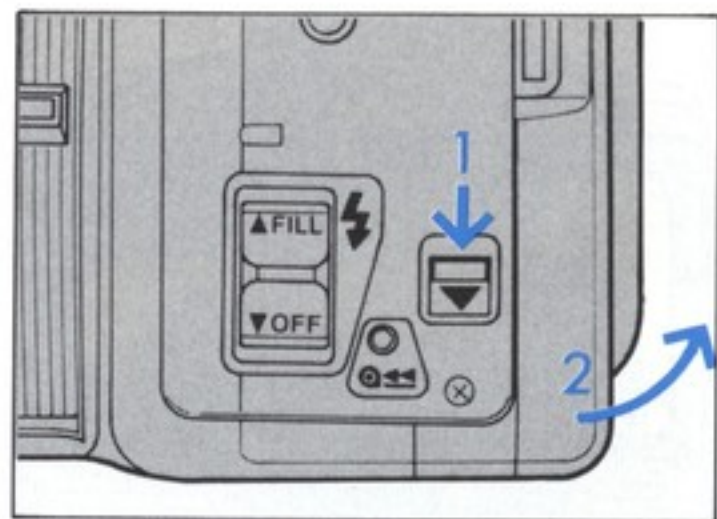


DXマークの付いたフィルムをご使用ください。

DXマークの付いたフィルムを使用すると、カメラのフィルム感度が自動的にセットされます。使用できるフィルム感度はISO50～1600です。

- リバーサルフィルム（スライドフィルム）は、ISO50、100、200、400、1000、1600をお使い下さい。
- DXマークのないフィルムは、カメラが自動的にISO100にセットされますのでISO100のフィルムを使用してください。
- カメラのDX接点やフィルムのパトローネ上のDX情報パネルを汚さないでください。

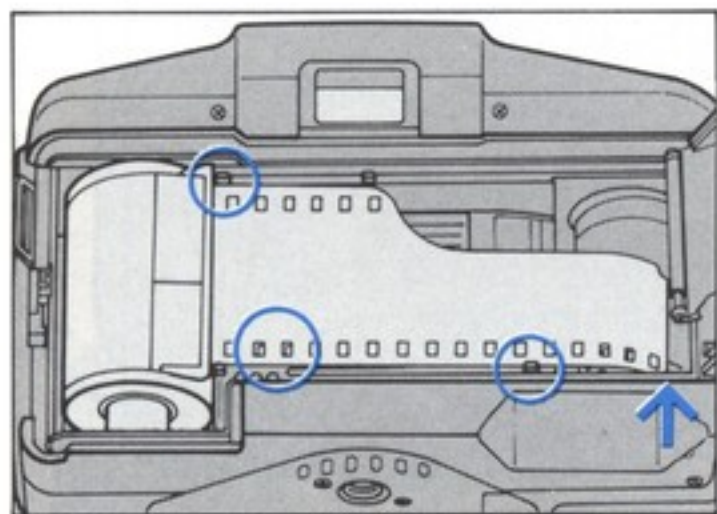
4 フィルムの入れ方



フィルムは、直射日光に当てないように注意してカメラへ入れて下さい。

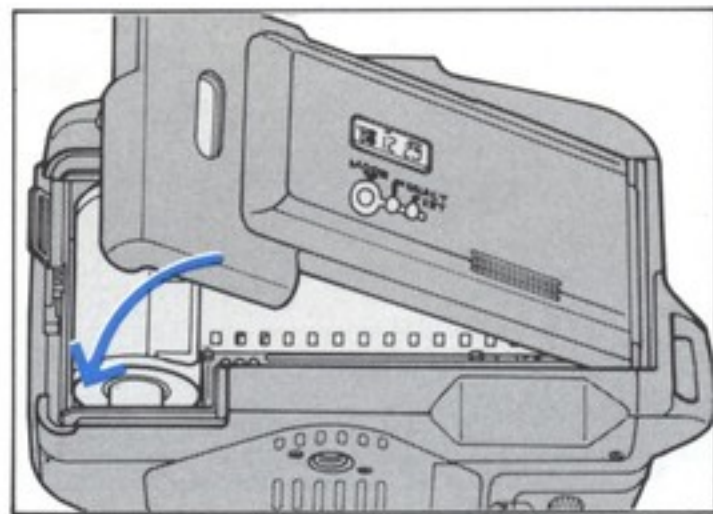
1)裏蓋開閉ボタンを矢印の方向に押し下げ、裏蓋を開けます。

- 裏蓋を開けた際、指やボールペン等でカメラ内部の遮光板をついたり触れたりしないようにしてください。

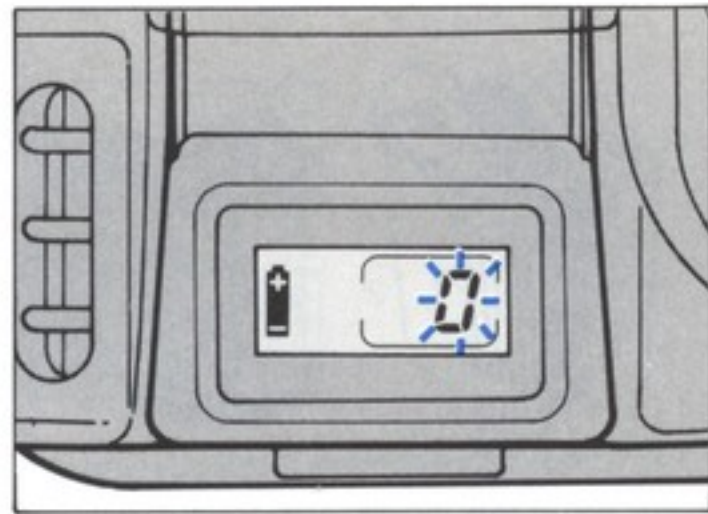


2) フィルムを入れ、フィルム先端をマークに合うように引き出します。フィルムガイドにフィルムが乗らないように注意して下さい。

- フィルムの長さは、長すぎても短すぎてもいけません。もしパトローネからフィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルム先端位置マークに合うように長さを調節して下さい。



3) 裏蓋を閉めて下さい。
フィルムは、液晶表示パネルのカウンターに“1”が出るまで自動的に巻き上げられます。



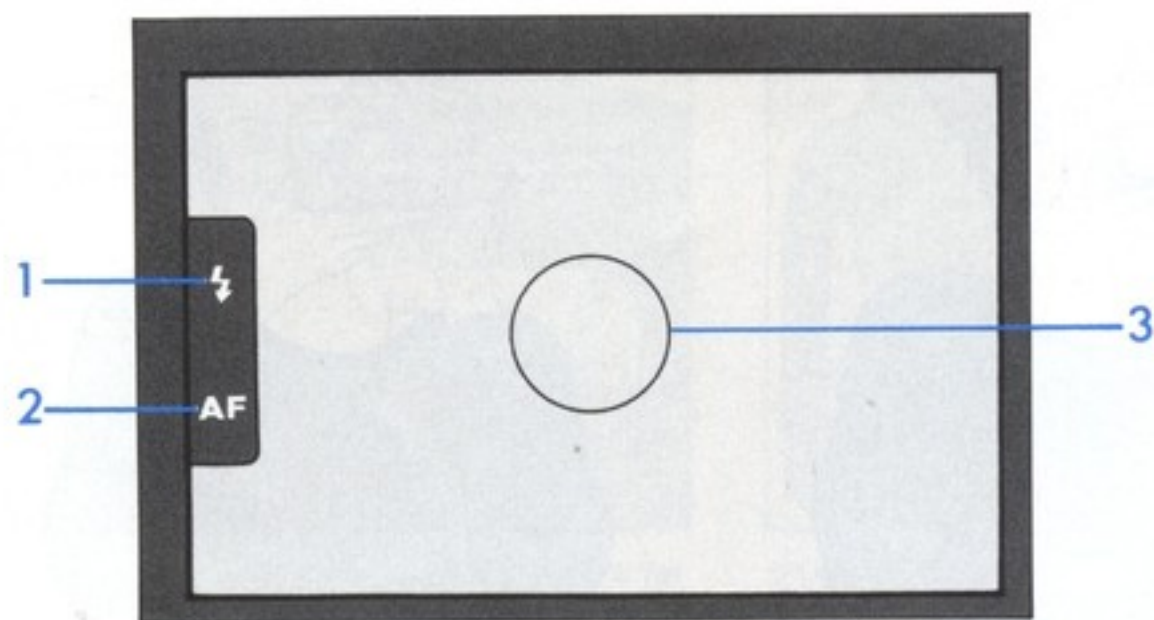
- フィルムカウンターが“0”のままで点滅している場合は、フィルムが正しくセットされていません。裏蓋を開けフィルムをただしく入れ直して下さい。

5 カメラの構え方

- カメラを構えるときは、ひじを軽く体に付け、カメラがブレないようにして下さい。
- ストロボ発光部、レンズ及びAF測光窓に指がかからないように構えて下さい。
- レリーズボタンは静かに押して下さい。特に望遠時は手ぶれの影響がでやすくなりますのでご注意下さい。

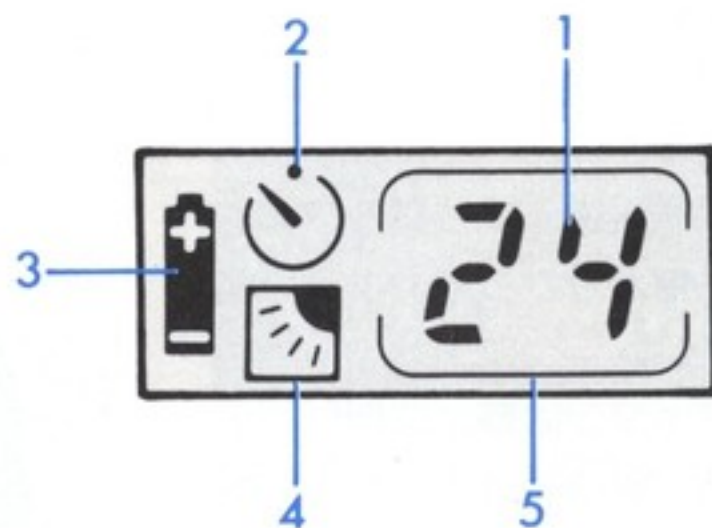


6 ファインダー内表示



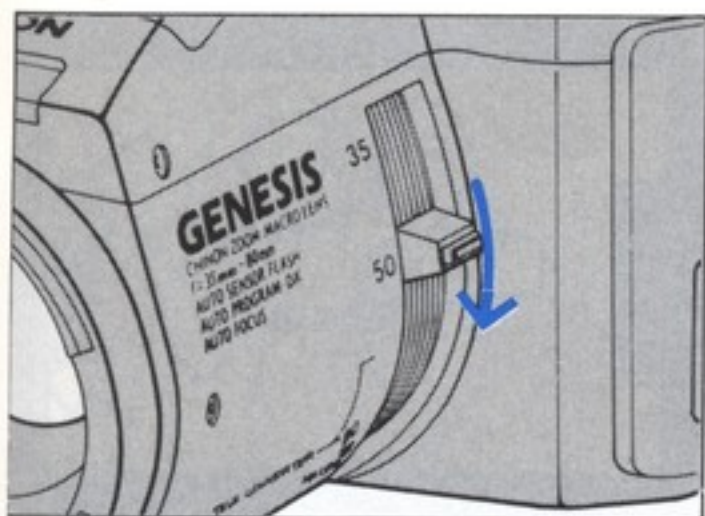
- ①フラッシュシグナル
充電表示(点灯)・未充電表示(点滅)
- ②AF OKシグナル(点灯)兼、近距離警告(点滅)
- ③フォーカスゾーン

7 液晶表示



- ①フレームカウンター
- ②セルフタイマー
- ③バッテリーチェック
- ④露出補正(BLC)
- ⑤多重露出

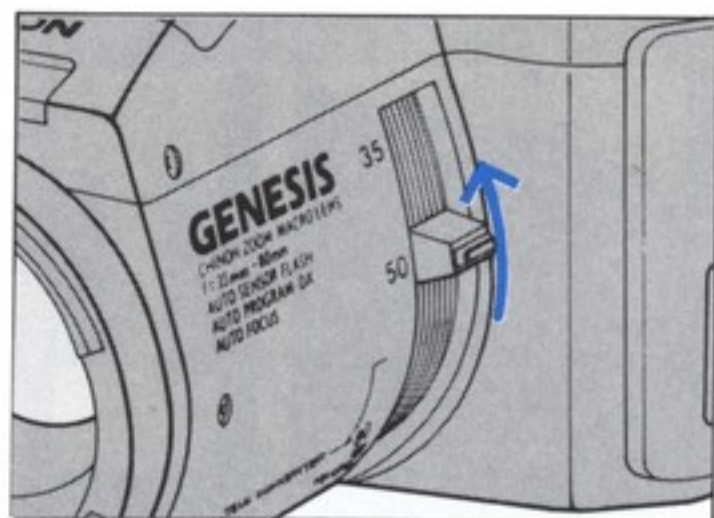
8 ズーミングのしかた



ファインダーを見ながら、好みの構図に合わせて撮影します。

〔望遠撮影〕

遠くのを大きく写したいとき、ズームレバーを矢印の方向へ動かすことにより、レンズが望遠側（焦点距離80mm）になります。

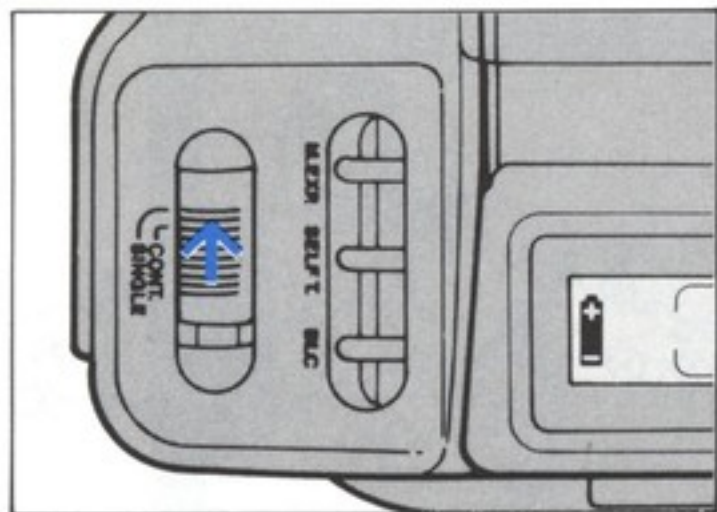


〔広角撮影〕

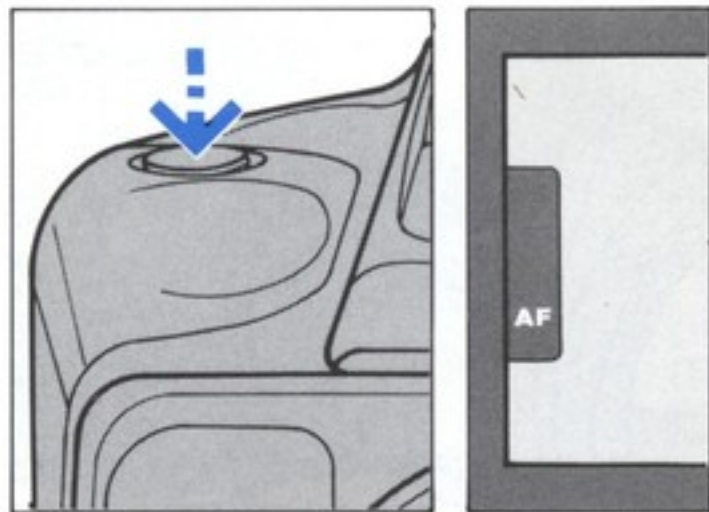
広い範囲のものを写したいとき、ズームレンズを矢印の方向へ動かすことにより、レンズが広角側（焦点距離35mm）になります。



9 オートフォーカス撮影



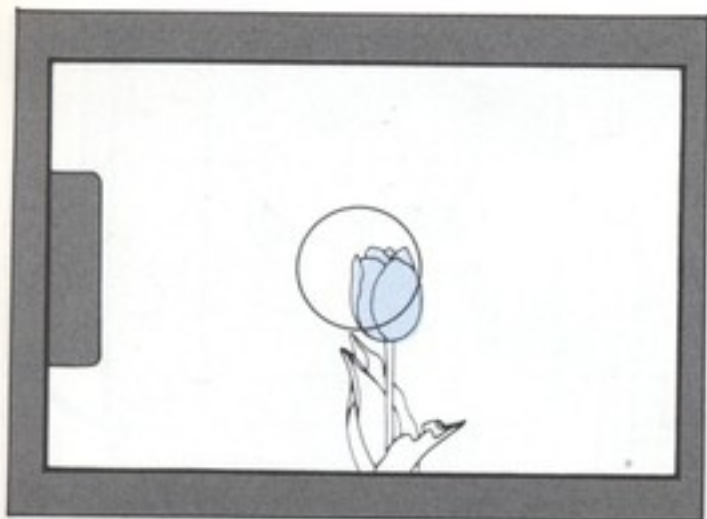
- 1) AFモードボタンをシングルAFモード(S)の位置にします。
- 2) ファインダー中心のフォーカスゾーンに被写体を合わせます。



- 3) リリースボタンを軽く押します。
自動的にピント合わせが行なわれ、ピントが合うと、ファインダー内にAF OKマークが点灯し、フォーカスゾーンの像がはっきり見え、ピントの合ったことを確認できます。リリースボタンを一杯に押し、撮影します。



- 4) フォーカスゾーンと測距位置
撮影または、フォーカスロックでピントを合わせる時は、ピントを合わせたい被写体がフォーカスゾーンに一杯にかかる様にして撮影をして下さい。



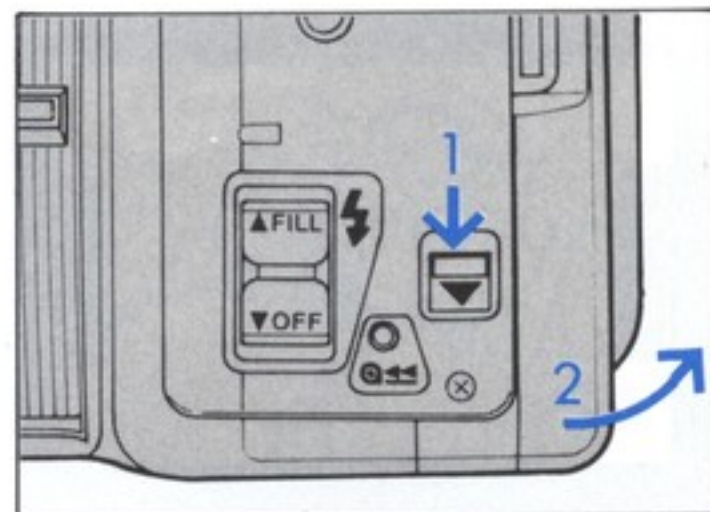
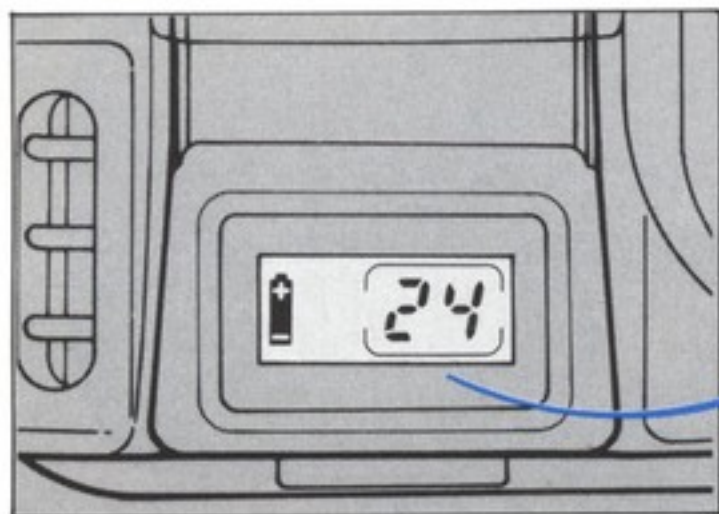
小さい被写体にピントを合わせたい場合は、図のフォーカスゾーンの部分に被写体を合わせて下さい。



- 被写体までの距離が近すぎる場合は、ファインダー内のAFマークが点滅します。マクロ撮影に切り換えるか、離れて撮影をして下さい。(AF撮影距離0.85~∞)
- シングルAFモードの場合、ピントが合うまでシャッターは切れません。

- 次のような被写体の場合、オートフォーカス撮影では、誤測距する場合があります。
水面、車のボディ、ガラスのような光が反射しやすい被写体、ガラス窓越し、金網越しの被写体。

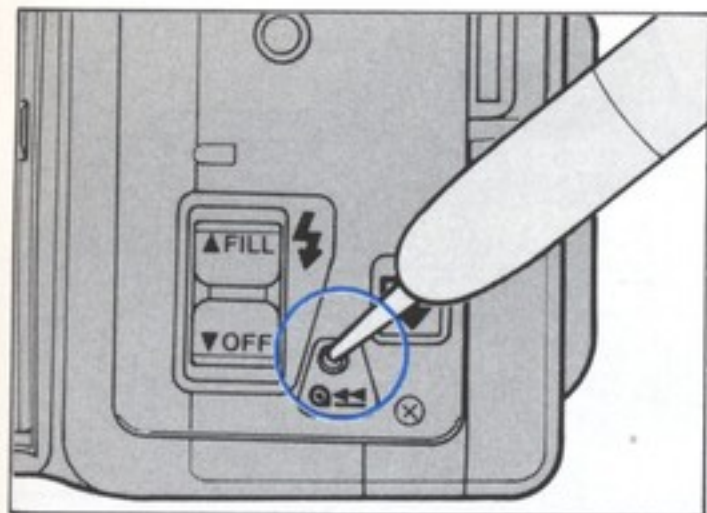
10 フィルムの巻き戻し



1) フィルムを最後まで撮り終わると約2~3秒後に自動的に巻き戻しを始めます。

2) 巻き戻し中は、フィルムカウンターは逆算します。全部巻き終わるとカメラは自動的に停止します。

3) フィルムカウンターが"0"に戻っていることを確認してから裏蓋を開けて下さい。

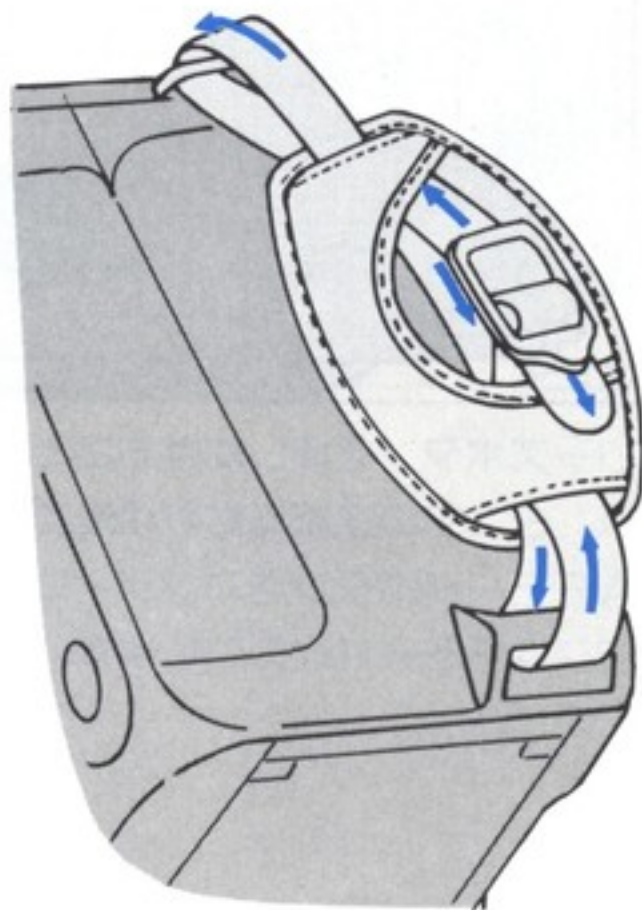


〔フィルムの途中巻き戻し〕

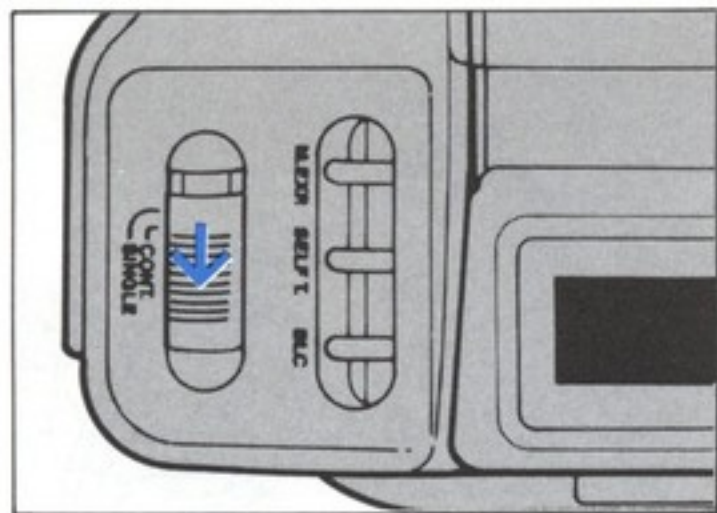
フィルムを全部撮り終える前にフィルムを取り出したい時は、カメラ側部の裏蓋開閉ボタン横のマニュアルリワインドボタンを、ボールペン等の先のあまり鋭くないもので押して下さい。

- フィルム巻き戻し後カウンターが“0”に戻らず数字が点滅している場合は、もう一度マニュアルリワインドボタンを押して下さい。

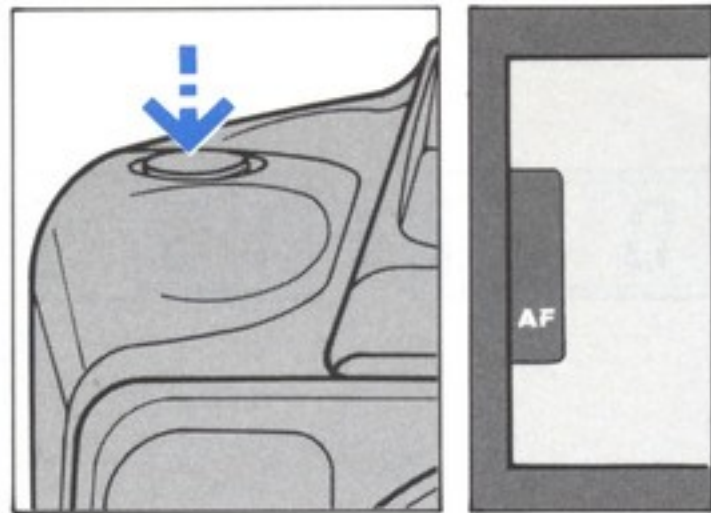
11 ストラップの取り付け方



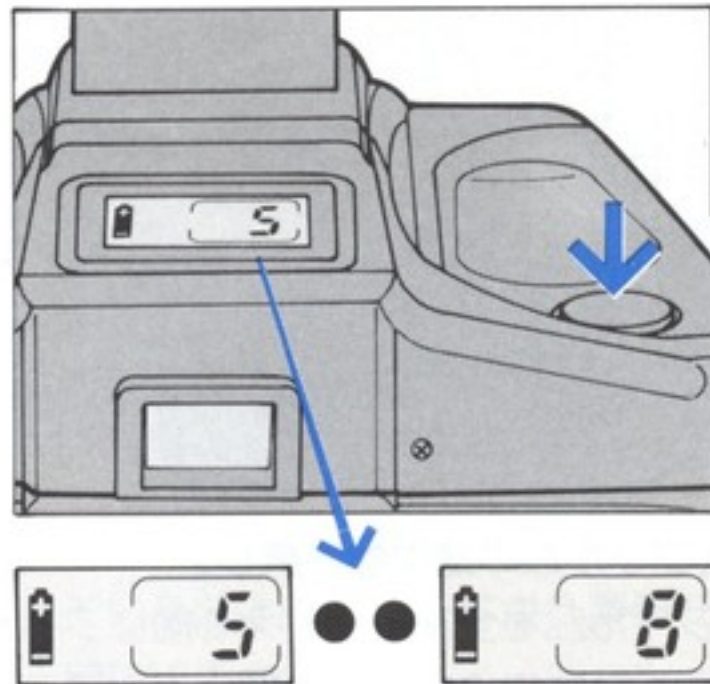
1 連続撮影



レリーズボタンを押し続けることにより、3コマの連続撮影が可能です。
1) AFモードボタンをコンティニュアスAFモード(C)にします。

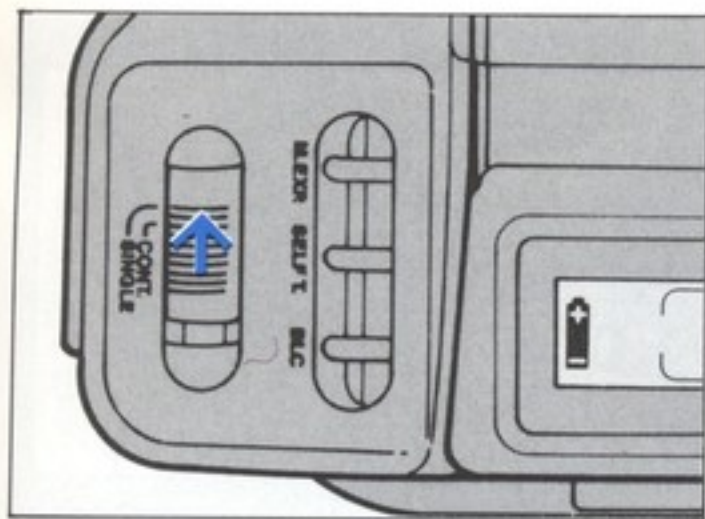


2)レリーズボタンを軽く押します。
AFが作動しピントが合うと、ファインダー内のAF OKシグナルが点灯します。



3)AF OKシグナルの点灯を確認してから、レリーズボタンを一杯に押し込んで撮影をします。
4)レリーズボタンを一杯に押し込んだままにしています。連続で3コマ撮影をすると自動的にストップします。

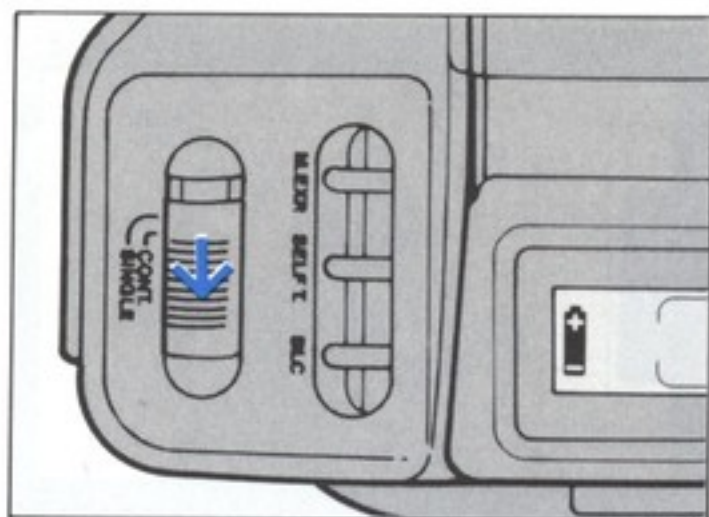
2 AFモード



〔シングルAFモード(S)〕

普段の撮影は、ここにセットして下さい。レリーズボタンを軽く押すとAFが作動しピントが合うと、ファインダー内にAF OKマークが点灯します。このとき、レリーズボタンを軽く押していれば、フォーカスはロックされたままです。

このモードでは、ピントが合うまでシャッターが切れません。



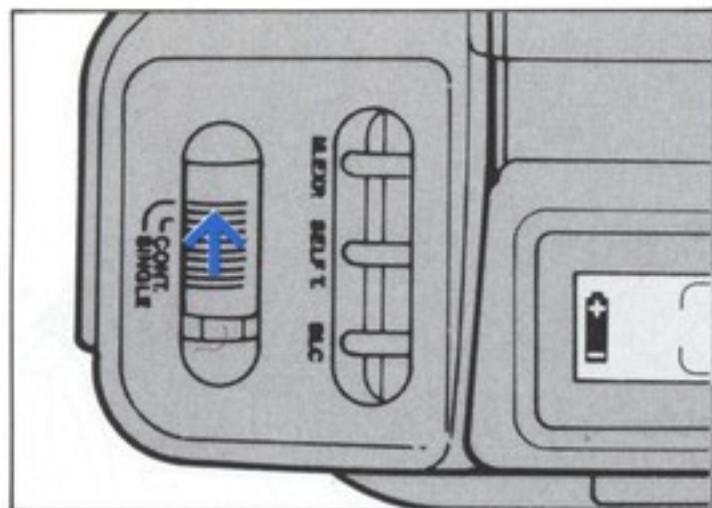
〔コンティニュアスAFモード(C)〕

シャッターボタンを軽く押し続けていると、被写体の動きに合わせてAFが追従しますので、動いているものを追いかけながら、ある一瞬を撮るときに便利です。

- シャッターはピントが合う合わないに関係なくいつでも切れます。
- 動きの速い被写体の場合には、ピントが合わないことがあります。

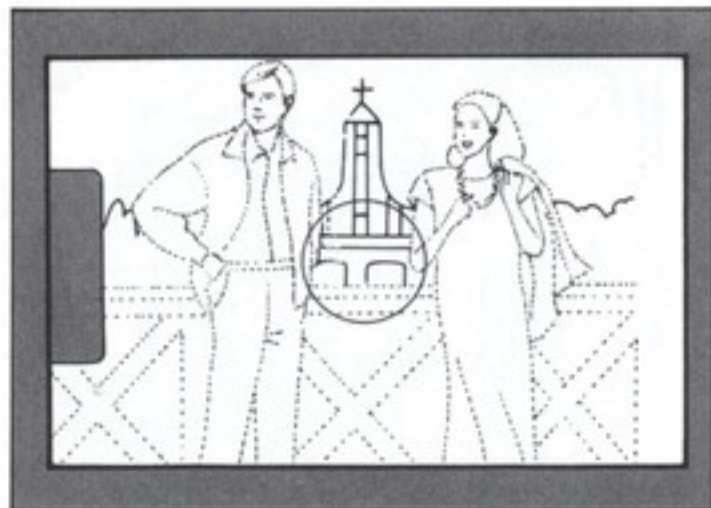


3 フォーカスロックと解除



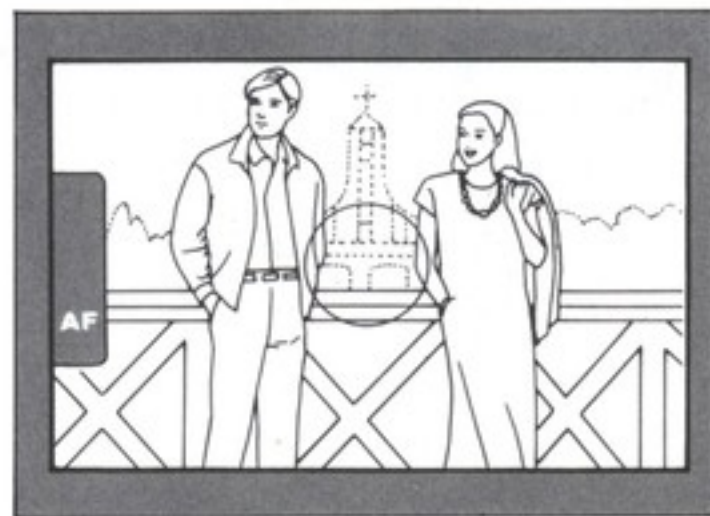
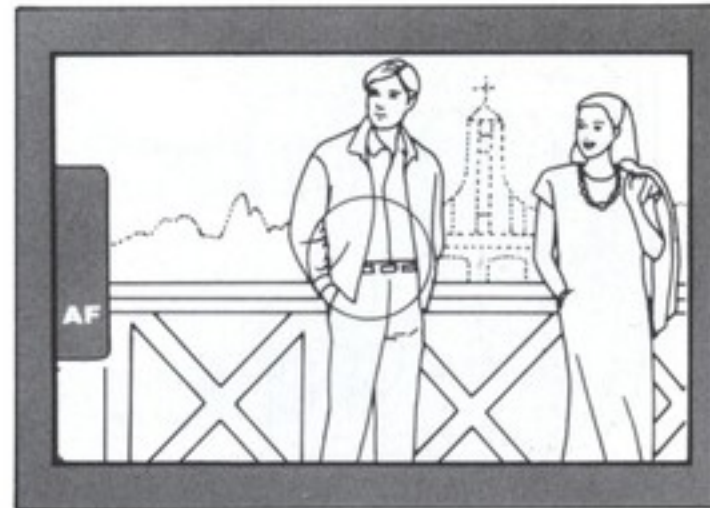
写したい被写体がファインダーの中心から外れているときや、ピントが合いにくい被写体を撮るときには、あらかじめピントを固定するフォーカスロックを使います。

1) AFモードボタンをシングルAFモード(S)の位置にします。

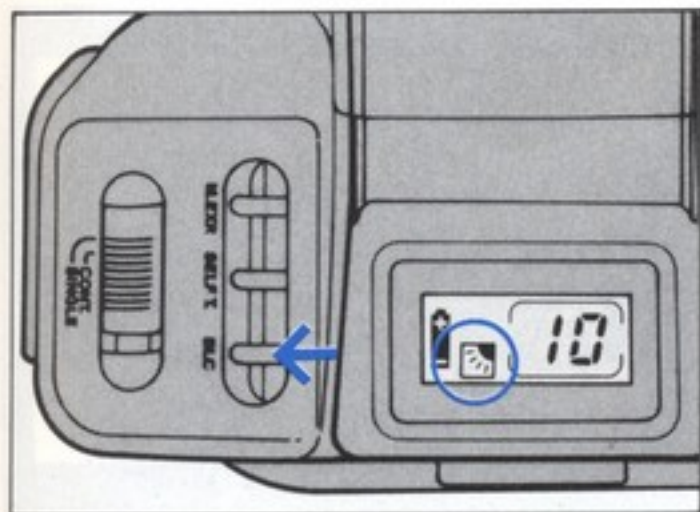


2) ファインダーをのぞいて、写したい被写体にファインダーの中心のフォーカスゾーンを合わせます。リリースボタンを軽く押し、AFマークが点灯するのを確認します。

3) リリースボタンを軽く押したまま写したい構図にカメラを移動します。



4 露出補正(バックライトコントロール)

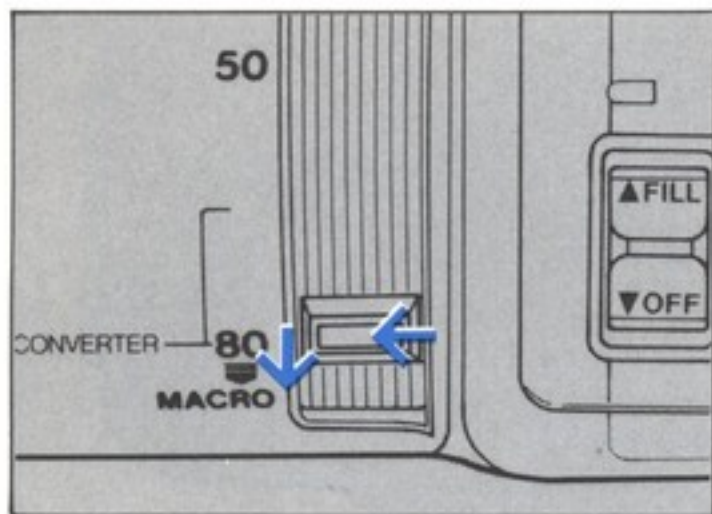


逆光での人物撮影のときなど、人の顔が暗くなることがあります。このようなとき露出を補正することで、きれいな写真を撮ることができます。

- カメラ上部の露出補正(BLC)ボタンを押すと、液晶表示パネルにマークが現れ、シャッターをきると露出は自動的に補正されます。

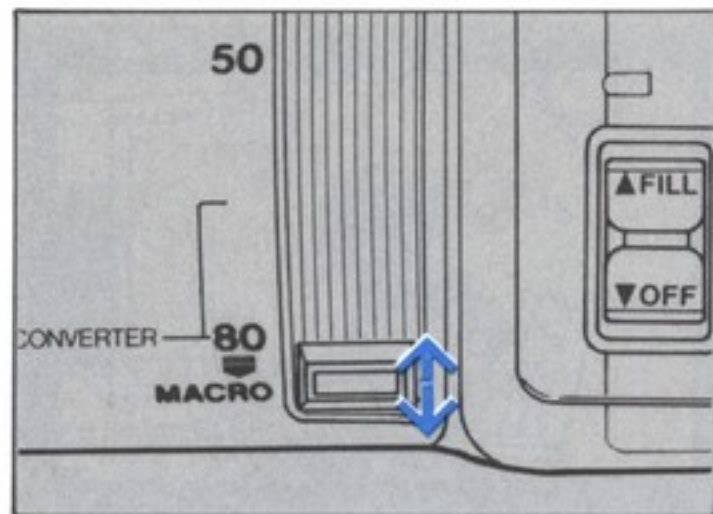
- 撮影が終わると自動的に露出補正は解除されます。また、シャッターをきる前に再度、露出補正ボタンを押すことでも解除されます。
- 近距離撮影のときは、日中シンクワをおすすめします。

5 マクロ撮影



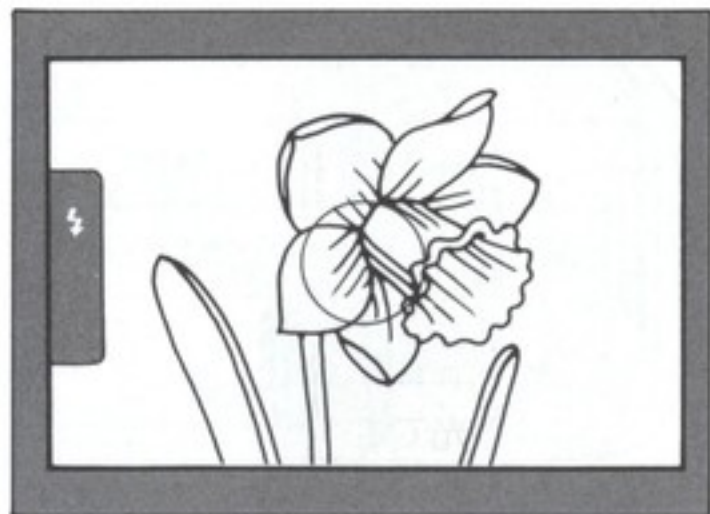
50～85cmの間でマクロ撮影が可能です。

1)ズームレバーをTELE 80mmの位置にします。マクロ切り換えボタンを押して、ズームレバーをマクロ側へ回転させます。



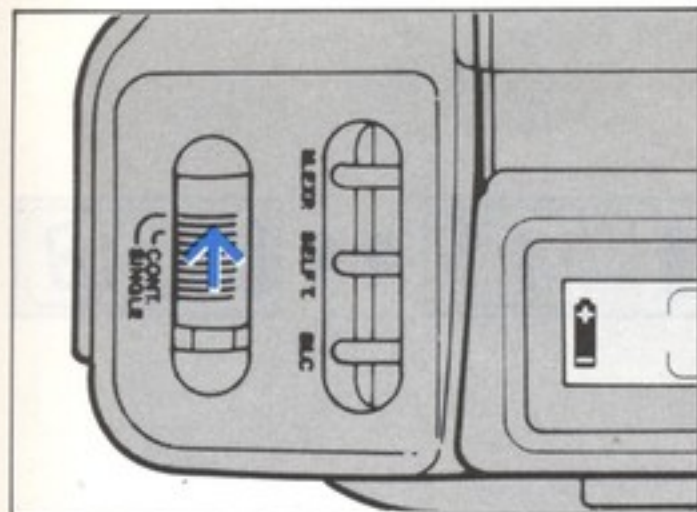
2)ファインダー内のフォーカスゾーンを見ながら、ズームレバーをマクロ範囲内で回転させ、フォーカスゾーンの被写体像がはっきり見える様にします。

3)リリースボタンを一杯に押し撮影します。



- 必要に応じて、カメラの位置を前後させてピントを合わせます。
- マクロ撮影の場合、明るい輝度からフラッシュが発光します。
- ズームレバーがマクロ位置にあると、AFが作動せずピントが合わなくてもシャッターが切れますので、マクロ撮影後は必ずズームレバーをマクロ位置から戻しておいて下さい。

6 多重露出

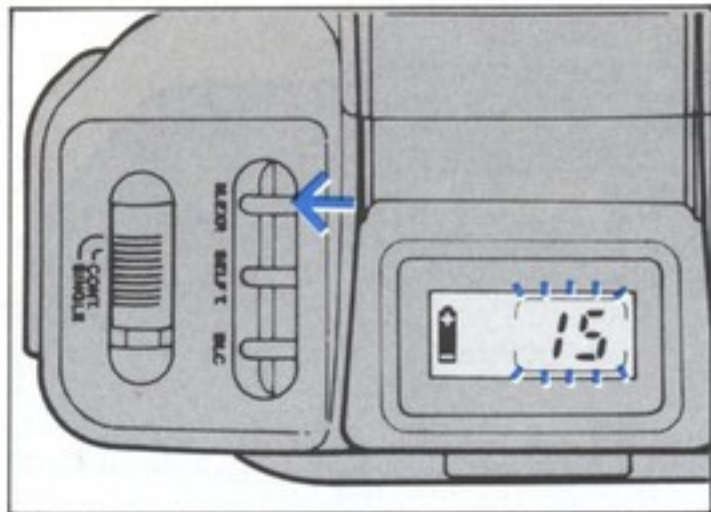


このカメラは、多重露出ボタンを押すことで自動巻き上げが止まり、同じフィルム画面上に最高3シーンまで重ねて撮影（多重撮影）することができます。

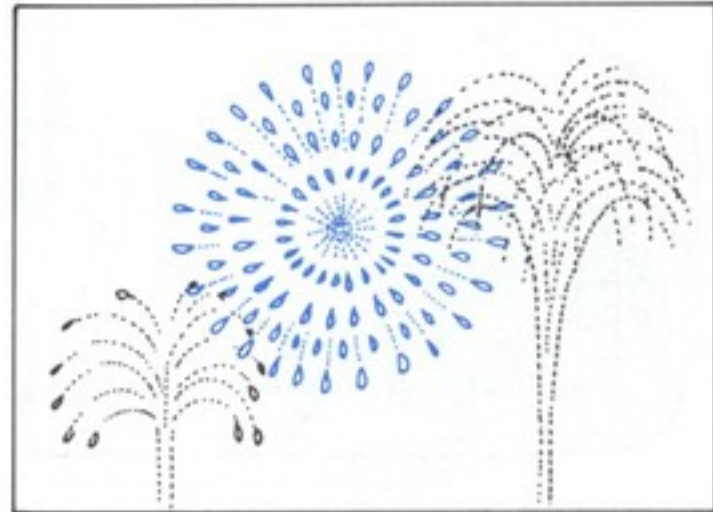
〔シングルモードでの多重撮影〕

2コマの多重撮影ができます。

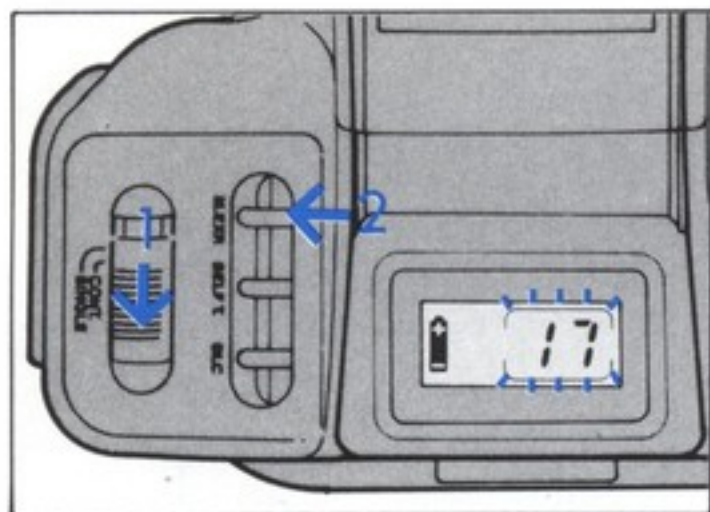
1) AFモードボタンを(S)の方向にします。



2) 多重露出ボタンを押します。液晶表示パネルのカウンターフレームが点滅したら多重撮影可能です。
3) リリースボタンを押して撮影をします。(1回目)このときフィルムは巻き上がりません。

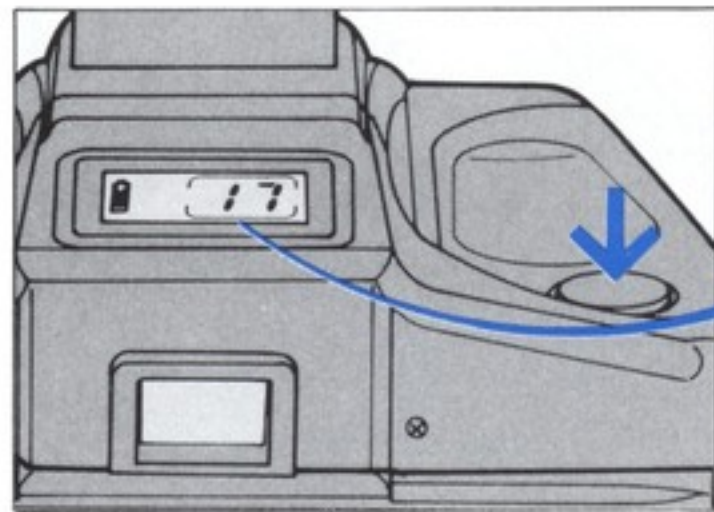


4) いったんリリースボタンから指を離し、ファインダーをのぞき重ねて写したい構図を決めます。構図を決めたらリリースボタンを押して撮影します。この時点で、フィルムは巻き上がり多重撮影は終了して、カウンターの点滅も点灯にかわります。



〔コンティニユアモードでの多重撮影〕

- 1) AFモードボタンを(C)の位置にします。
- 2) 多重露出ボタンを押します。液晶表示パネルのカウンターフレームが点滅したら多重撮影可能です。



- 3) 構図を決めシャッターボタンを押し撮影をします。リリースボタンを押し続けると、3シーンまで連続での多重撮影が可能です。3シーン撮影すると、フィルムは巻き上がり多重撮影は終了でカウンターの点滅も点灯にかわります。



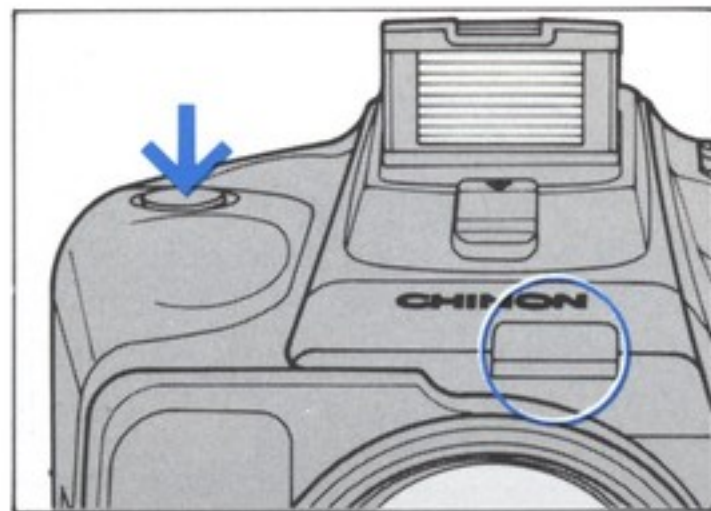
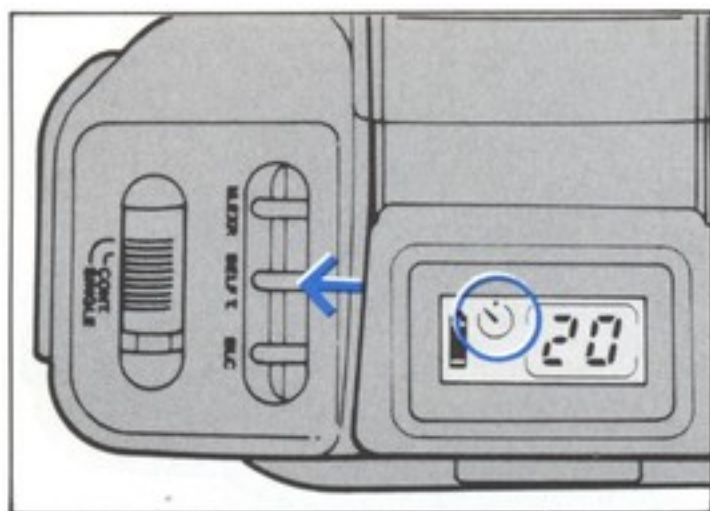
- 1シーン撮影後、リリースボタンから指を離すと、もう1コマだけ多重撮影できます。
- 2シーン撮影後、リリースボタンから指を離しても多重撮影はリセットされません。残り1シーン撮影することができます。
- 多重撮影終了後は、カウンターフレームの点滅が点灯に変わったことを確認して下さい。

〔多重撮影解除〕

- 撮影後は自動的に解除します。
- 多重露出ボタンを再度押すことにより解除します。

- 多重撮影のときは、リバーサルフィルム(スライドフィルム)は使用しないで下さい。
- フィルムをプリントするときは多重撮影であることを店頭で申し出ないと、プリントされない場合があります。
- 多重撮影は、明るい花火か夜景または暗所でのストロボ撮影が適しています。日中ですと、露出オーバーになります。

7 セルフタイマー撮影



このカメラは、撮影者自身も写れるセルフタイマー機構も搭載しています。

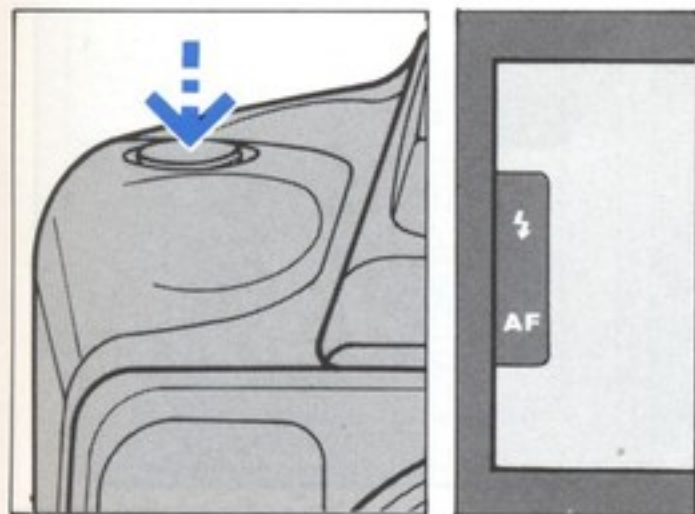
- 1)ファインダーにて構図を決めます。
- 2)セルフタイマーボタンを押します。
このとき液晶表示パネルには、セルフタイマー表示が現れます。

3)レリーズボタンを押します。カメラ前部のセルフタイマー表示LEDが点灯して約10秒後にシャッターがきれます。シャッターがきれる3秒前にはLEDが点滅を始め、撮影の瞬間を知らせます。

〔セルフタイマー解除〕


- 再度セルフタイマーボタンを押すことで解除されます。
- セットして30秒以上放置しますと、自動解除となります。
- メインスイッチをOFFにすると解除されます。

8 フラッシュ撮影



〔自動発光モード〕

このカメラは、明るさを自動的に感知し、必要なときには、自動発光します。

- レリーズボタンを軽く押し、ファインダー内に“”マークが点灯もしくは点滅した場合には、フラッシュ発光モードです。点灯している時には、充電完了し撮影可能

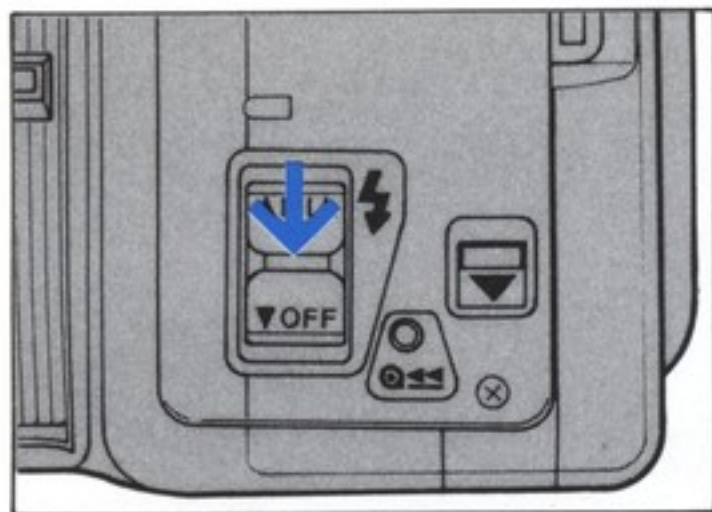
な状態です。点滅している時は、充電中です。

〔フラッシュ撮影可能距離〕

ISO	35mm	80mm
100	0.85~4.2m	0.5~2.7m
400	0.85~8.3m	0.5~5.3m

- コンティニアンスAFモードの場合、未充電でもシャッターが切れます。また、半押し状態でAFシグナル点灯時には充電されません。

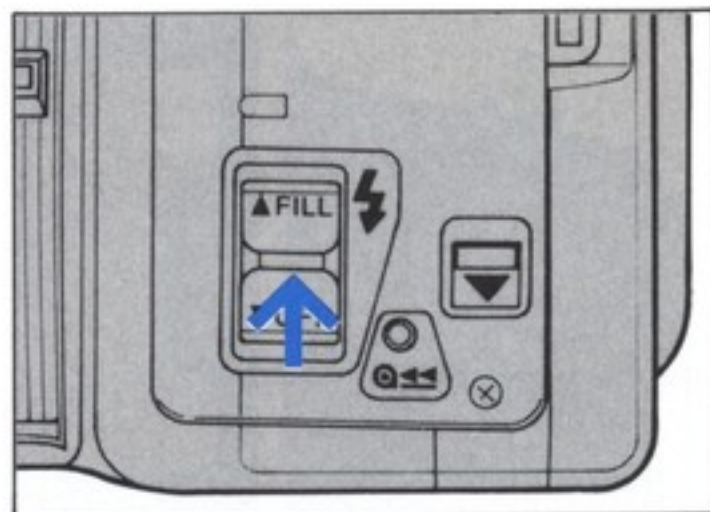




〔オフ・フラッシュモード〕

このカメラのフラッシュは被写体の明るさに応じ自動発光しますが、フラッシュなしで撮影したい場合は、フラッシュモードスイッチを下方にスライドさせ、その位置を保持しながらシャッターをきると、フラッシュは発光せずオフ・フラッシュ撮影ができます。この時、露出時間が伸

びます。手ブレにならないように、三脚を使用して下さい。



〔日中シンクロ(フィルフラッシュ)モード〕

逆光や木影など、被写体が暗くなる時、フラッシュを日中の補助光として使用することができます。

- フラッシュモードスイッチを上方にスライドさせ、その位置を保持しながらシャッターをきると、いかなる状況下でもフラッシュは発光します。



- 暗い所では、自動発光しますが、さらに日中シンクロモードにすると、露出時間が長くなり、夜景を背景にした人物の撮影に適しています。手ブレにならないよう、三脚を使用して下さい。

9 オートデート機構

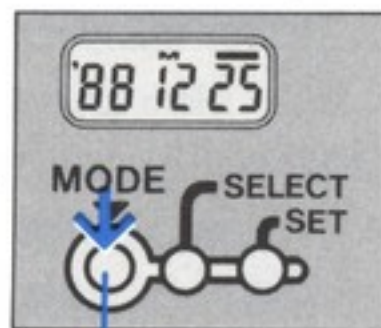
1.年・月・日、時・分の合わせ方

(A)日付けの合わせ方

操作ボタンは損傷を防ぐため、ボールペン爪等、先の鋭くない物で押して下さい。

例：1988年12月25日

①モードボタンを押し日付モードにします。



モードボタン
年 月 日
月 日 年
日 月 年

②セレクトボタンを押すと、セットされる数値が点滅します。次にセットボタンにより、合わせたい数値

28 に変えます。

年・月・日モードの場合

③セレクトボタンを押し、左端の数値を点滅させ、セットボタンにより「88」に合わせます。



④セレクトボタンにより中央の数値を点滅させ、セットボタンを押し「12」に合わせます。



⑤セレクトボタンを押し右端の数値を点滅させ、セットボタンを押し「25」に合わせます。

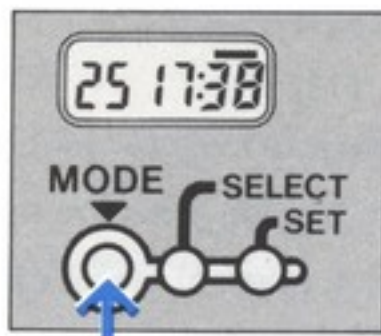


- セットボタンを1回押すごとに表示が1つ変わります。また、しばらく押し続けると連続的に変わります。
- 年は西暦の下2桁に合わせてください。
- 年・月・日表示は1988年から2019年まで、うるう年や大・小の月(月末)は自動的に修正されます。

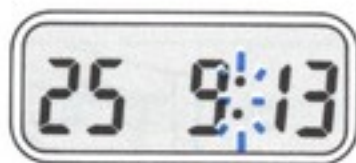
(B)日・時・分の合わせ方

例：25日 午後5時38分

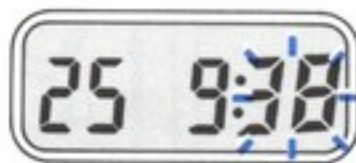
①モードボタンを押し、時間モードにします。



②セレクトボタンを押し「:」を点滅させます。セットボタンを押し0秒をスタートセットします。



③セレクトボタンを押し分の数値を点滅させます。次にセットボタンを押し「38」に合わせます。



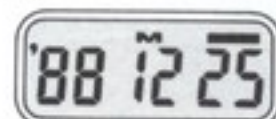
④セレクトボタンを押し時の数値を点滅させセットボタンにより「17」に合わせます。



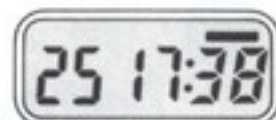
- 時刻表示は24時間制表示です。
- セットボタンを1回押しごとに表示が1つ変わります。しばらく押し続けると連続的に変わります。
- 日表示は年・月・日モードにて合わせます。年・月・日、時・分の修正が終わりましたら、写し込みたいモードに、モードボタンで合わせます。

2. 撮影(データの写し込み)

外部表示窓に示された数値が写し込まれます。モードボタンにより、年・月・日、日・時・分、またはデータなしの選択ができます。



年・月・日
月・日・年
日・月・年



日・時・分



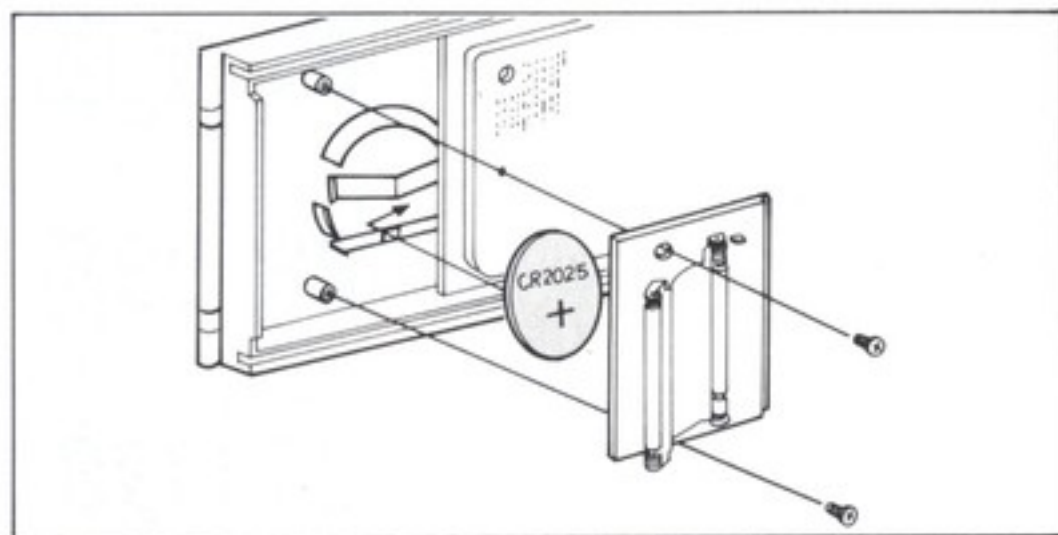
データ写し
込みなし

- 「M」は、月を示す数値の上に表示されます。
- 「■」はデータが写し込まれると、表示が点滅し、写し込んだことが確認できます。
- データの写し込まれる部分が黄色や明るい場合は、データが読みづらくなります。
- セット中は写し込みができません。「■」マークが点灯していることを確認して下さい。



3. 電池の交換

- ①電池室ふたのネジをドライバーではずし、電池室ふたをはずします。
- ②電池を⊕(プラス)が見えるようにし、電池室側面にある接片に合わせ入れます。
- ③電池室と電池室ふたの凹凸を合わせ、電池が接片からはずれないようにふたをしネジでとめます。
このとき、外部表示されます。されない場合は、電池の入れ方を確認してください。



使用電池 : 3Vリチウムバッテリー
(寿命約3年)、タイプ・CR2025

- 電池が電池室側面の接片の上にかかっていると、電池室ふたはしっかり入りませんからむりに押し込まないでください。
- 電池を入れた際、誤表示する場合があります。修正ボタンで修正して正常表示にしてください。

電池は約3年使用できますが、外部表示窓の数字が点滅したり写真に写し込まれた文字が薄くなったら、新しい電池と交換してください。

(現在入っている電池は、モニター用なので3年間使用できない場合もあります。)

●液晶(LCD)表示について

液晶の性能上、下記のことにご注意ください。

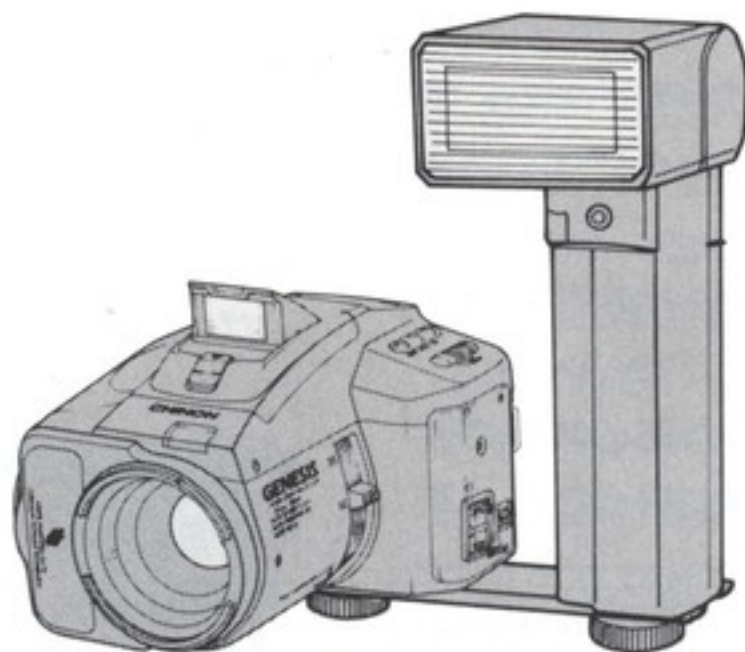
- 60℃近くの高温下では、液晶表示が黒くなる場合がありますので、直射日光の当る車の中など高温になる場合には、長時間放置しないでください。
- 0℃以下では液晶の応答速度が遅くなったり、表示が点滅することがあります。

●使用上の注意

- 外観、ボタンなどは乾いた柔らかい布でふき、薬品は使用しないでください。
- 開閉は静かに行ない、無理な力は加えないでください。
- 電池を交換したとき外部表示が点滅することがありますので、カメラのシャッターを切り、リセットしてください。

●外部ストロボ

- ISO100、400のネガフィルム使用時、フラッシュ撮影可能距離以降でフラッシュ撮影をしたい場合、外部ストロボを取り付けますと、暗所での遠距離撮影が可能となります。また、パウンド撮影も可能です。
- 使用方法は、まず外部ストロボをカメラに装着し、スレープSWをONにします。次に光量切替えSWをISO 100の場合はA 2、ISO 400の場合はA 1に合わせて下さい。次にカメラの焦点距離に合わせてストロボもズーミングして下さい。



(ストロボセット位置)

レンズ焦点距離	ストロボセット位置
35mm	28mm
50mm	50mm
80mm	50mm
テレコン 105mm	105mm

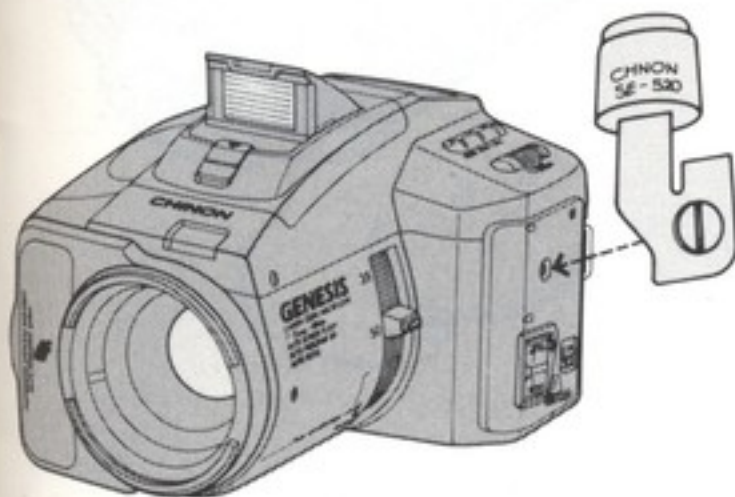
(フラッシュ撮影可能距離)

	ISO100	ISO400
35mm	0.85~ 7m	0.85~13m
50mm	0.85~ 7m	0.85~13m
80mm	0.85~ 5m	0.85~10m

- 専用のスレーブユニットを取り付けますと、市販の外光式オートフラッシュが使用出来ます。絞りF 5.6位置にて御使用下さい。撮影範囲のめやすは、下記の式により算出して下さい。なるべくG Noの大きなオートフラッシュを御使用下さい。

$$\text{距離} = \frac{GN_{\text{a}}}{F}$$

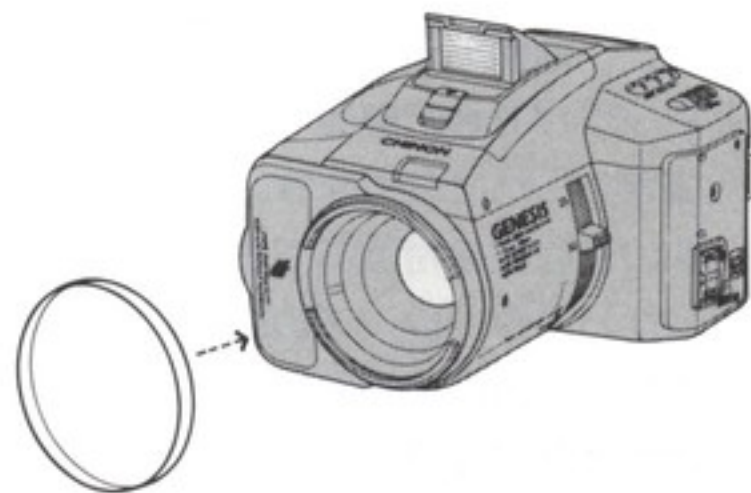
F : 35mm	4.1
80mm	6.4



● フィルター、フード

標準のフィルターリングを使用すると、φ 62mmのフィルターが使用出来ます。カメラにフィルターリングを取り付けてから、フィルターを付けて下さい。

また、逆光時には専用のフードを次の様に取り付けて撮影して下さい。カメラ側取り付け溝にフードの溝を合わせて、しっかり止まるまで回わして取り付けて下さい。



- 特殊フィルターを使用すると、画面の四隅が暗くなる場合があります。
- フードを付けてストロボ撮影すると、ストロボ光が遮え切られる場合があります。

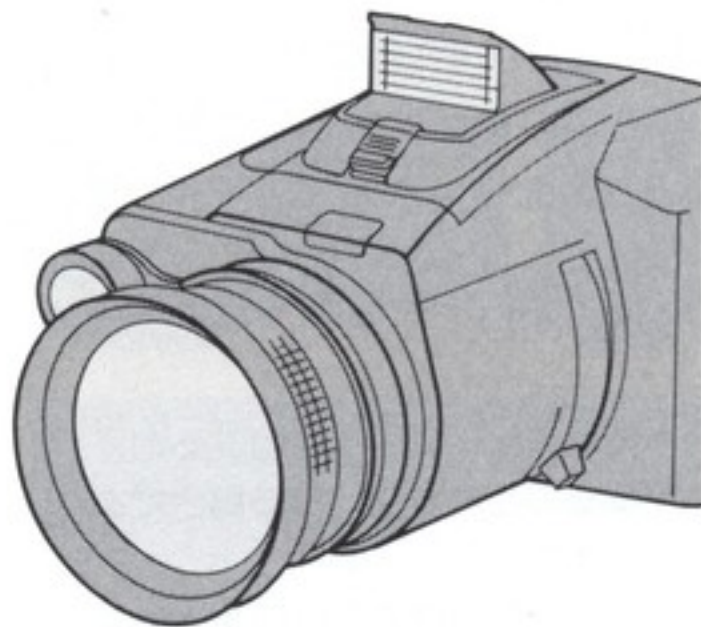
●TELEコンバーターレンズ

- テレコンバーターレンズを付けますと、指標範囲内で連続的にズームングができ、最高 105mmまでの望遠ズームになります。

次の様に取り付けて下さい。

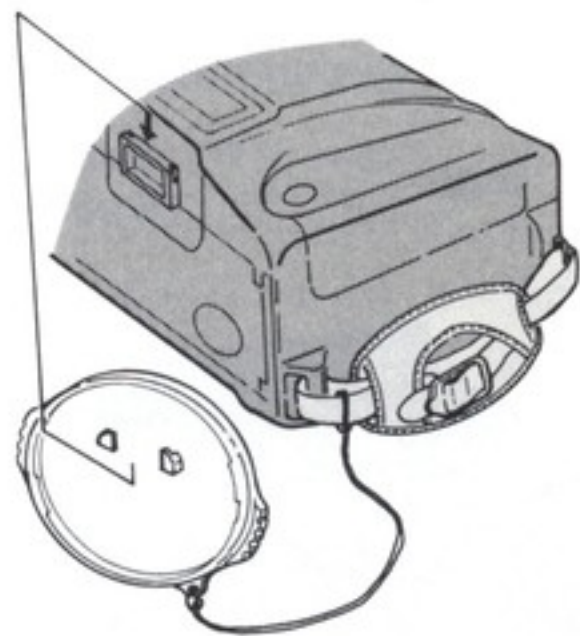
コンバーターレンズのロック解除ボタンの所にある丸ポツと、カメラ本体側の指標を合わせ、時計回転方向にロックがかかるまで回わしてセットして下さい。また、外す時はロック解除ボタンを手前に引き、ロックを解除し、コンバーターレンズを回して取り外して下さい。セットされた時、AF測距補正レンズがAF測距窓側上部にきていることを確認して下さい。

また、コンバーターレンズ前面にφ62のフィルターを装着することができます。



●アイピースカバー

- セルフタイマー使用時等、接眼窓から目を離す時には、レンズキャップ内面に付いているアイピースカバーを、接眼窓に取り付けて下さい。



●手入れと保管

- カメラを長期間使用しないときは、メインスイッチをオフにして、風通しの良い涼しく乾燥した場所に保管して下さい。
- カメラが故障した場合は、絶対にご自分で分解なさないで下さい。カメラ内部には高電圧回路があり危険です。お買い求めのカメラ店または当社サービスステーションへお持ち下さい。
- レンズなどに汚れが付いた場合は市販のプロアーブラシで吹き飛ばすか柔らかい清潔な布で軽くふきとって下さい。また、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないで下さい。
- 車のトランクやリヤ・ウイダーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。

●仕様

型式：プログラムAE、サーボ方式ステップレスAF35ミリ1眼コンパクトズーム

レンズ：チノンレンズ、35～80mm、F4.1-6.4、7群8枚構成、マクロ有

ファインダー：ペンタプリズム固定式、視野率85%、倍率0.8倍、視度-1.0diop、フラッシュ発光表示、フラッシュ充電表示、AF OKシグナル、近距離警告、モーター駆動クイックリターンミラー

焦点調節：近赤外光使用サーボ方式AF、フォーカスロックやり直し可、連動範囲AF0.85m～∞、マクロ0.5m～0.85m、連続AFモード、シングルAFモードの2モード

シャッター：モーター制御プログラム電子シャッター、1/4秒～1/300秒、フォーカス優先(シングルモード)、シャッター優先(連写モード)の2モード

露出調節：プログラム式TTL測光方式、SPD受光素子、連動範囲ワイドEV6～EV17(ISO100)、テレEV7.3～EV18.3(ISO100)

フィルム感度：DXフィルム自動セット、DXフィルム以外はISO100、BLC+1.5EV

フィルムオペレーション：オートローディング、自動巻き上げ、巻き戻し、3コマ連写(1フレーム/秒)モード、3コマ以内の多重露出制御

フラッシュ：低輝度自動発光、フラッシュマチック、ガイドナンバー12(ISO100m)連動範囲ワイド0.85～4.2m、テレ(マクロ)0.5～2.7m、日中シンクロ、オフ・フラッシュ、リサイクルタイム約3秒

LCD表示：フィルムカウンター、セルフタイマー、BLC多重露出、バッテリーチェック

データ機構：液晶表示クォーツデジタルウオッチ内蔵データバック、年月日、月日年、日月年、日時分、データなしの5モード西暦2019年まで可能、うるう年は自動修正

セルフタイマー：電子式約10秒

三脚取付ネジ：U $\frac{1}{4}$

外部ストロボ：スレーブユニット装着可能

フィルター径： ϕ 62

電池：6Vリチウムバッテリー(2CR5)

寸法・重量：124(長さ)×87(高さ)×119(幅)mm・755g
(本体のみ)

〔アフターサービスについて〕

- 指定の修理箇所、故障内容をできるだけ具体的に記入してください。なお故障の状態によっては、事故となったフィルム等を添付されると、修理作業の参考になります。
- 修理に直接関係のない付属品類は、トラブルの原因となりますので、ご自分でお持ちください。
- 保証書に購入年月日または有効期限の年月日、販売店名等の記入がないものは、すべて有料になります。
- 保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛は、お客様にご負担願います。
- 本製品の補修用性能部品は、およそ7年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間後であっても修理可能の場合もありますので、お買い上げ店または当社サービス機関にお問い合わせください。

★使い方等おわかりになり難い場合は最寄りの営業所にお問い合わせください。
仕様は都合により予告なしに変更する場合があります。

チノン株式会社

本社・工場：長野県諏訪市高島1-21-17 〒392 ☎0266(52)2700

東京営業所：東京都新宿区西新宿6-12-6 コアロード西新宿 〒160 ☎03(346)2481

東京サービスステーション：☎03(346)2481

大阪営業所：大阪市西区土佐堀1-5-11土佐堀INビル 〒550 ☎06(445)6841

福岡営業所：福岡市博多区博多駅東3-1-26ゼンリン福岡ビル 〒812 ☎092(441)3765

諏訪営業所：長野県諏訪市高島1-21-17 〒392 ☎0266(52)2700

名古屋出張所：名古屋市中区栄5-26-39タカシマ名古屋ビル 〒460 ☎052(252)0541